

おっぱいだより

1号

白鳥たちが鳥屋野淵に飛来して、日々秋の深まりを感じる今日この頃です。私達は母乳育児に取り組む中で「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」の認定を目指しています。私達の母乳育児の取り組みを皆様知ってもらおうと思い、おっぱい便りを発行することになりました。なぜ今母乳育児なのか、どうしたら母乳育児をスムーズに行えるのか、周りの人たちはどんな協力ができるのか、母乳をあげたくてもあげられないときはどういった関わりをしたらよいのか、少しでも育児をしていく上でのヒントになればと思います。

母乳育児が見直される

1989年にユニセフ・WHOは世界の全ての産科施設に対して「母乳育児を成功させるための10カ条」を守るように呼びかけました。1991年には「10カ条」を完全に実施する産科施設を「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」に認定する制度を設けました。

母乳は栄養面・衛生面だけでなく、親と子の「こころ」と「身体」の健康を育む利点があると考えられています。



おっぱいのウソ？ ホント？



Q. おっぱいが大きい人はたくさんおっぱいが出るの？

A. そんなことはありません。おっぱいの大小は脂肪の多少で決まります。脂肪はおっぱいの出方には関係しません。

母乳栄養と母乳育児

母乳栄養は単に母乳を与える事ですが、母乳育児は母乳を与えるということだけでなく、授乳を介して濃厚なスキンシップを行いながら、母子の絆を深めていくという事です。母乳を与える以上に大事な事が母乳育児という言葉には含まれているのです。

母乳育児を成功させるための10カ条 第1条

母乳育児についての基本方針を文書(*)にし、すべての関係職員がいつでも確認出来るようにしましょう。

(*) 産科病棟にあるので、いつでもいらして下さい！

私達は全てのお母さん、赤ちゃんに対して個別的に関わっています。母乳だけにこだわらず、母と子のよりよい関係を作るお手伝いをさせていただきます。